

カレントリング Current Ring 開発物語

私は元某大学電子工学教師で、数年前までは民間企業で主として電車のモーター設計・開発部門に勤務しておりました。

退職後の現在は、起業して弱電から強電に係る分野の開発を支援させていただいております。

朝の7時から夜の11時過ぎまで設計図とにらめっこ、電流計や大小のコイルと格闘する毎日です。

喫煙、適度な晩酌を楽しめる程度には健康ですが、ほぼ後期高齢者の仲間入りしている身としては、ご多分に漏れず、肩こり、腰痛、糖尿、etc etc それなりに持病を抱えております。

さて、とある日のことです。ビールを嗜みながら、軽く休憩していたある晩のこと、その辺（実験台上）に転がっているワイヤーで何気なくコイル作り（子供の悪戯のように指にワイヤーを巻き付ける）左中指、薬指に装着いたしました。

そのまま小一時間ほどビールを呑み続けておりましたが、ふと気が付くと何となく肩が軽くなった気がいたしました。ん??、あれ??

技術屋の悪い癖で、確認（検証）しないと落ち着かないという少々厄介な性格から、翌日は素面で両手指に装着し再挑戦いたしました。

矢張り「症状が軽くなっている！」と確信いたしました。それからが大変でした。

「科学的に説明はできるのか？」

フレミングの左手の法則（理科の教科書に載っていた）、電流、磁力等々、物理的な面からは何とか説明が出来そうですが、何かが足りない？

早速、情報技術者（コンピュータセキュリティ分野では有名人）でもある東洋医学に造詣が深い友人（ほぼ同世代）に相談したところ、「経絡/けいらく」や「ツボ」といった東洋医学の概念で説明が可能との回答が得られました。

それからというもの、装着する位置やコイル（リング）の大きさを変更する等、試行錯誤に膨大な時間を費やされることになりました。

ここで、押えとして、医学薬学に精通している別の友人（やはり同世代）に参加してもらうことにいたしました。

「三匹のおっさん」というテレビドラマ（泉谷しげる=柔道、北大路欣也=剣道、志賀廣太郎=電気関係）ではありませんが、それぞれ①物理、②コンピュータ&東洋医学、③医学薬学という各分野に精通したおっさん達が結集することにより、Current Ringがこの世に誕生することになりました。